

## 標準委員会 第5回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2009年9月4日（金） 13：30～17:15

2. 場 所 （独）原子力安全基盤機構 本館4階C, D会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 平野（光）（部会長），山口（副部会長），成宮（幹事），桐本，野中，平野（雅），吉田（一），倉本，松岡，松本，梅澤，橋本，守屋，竹山，宮田（浩），関根，福山，梶本，山下，佐々木，吉田（智）  
（21名）

（代理出席委員） 北村（瀬谷崎代理）（1名）

（欠席委員） 岡本，越塚，熊本，本間，町田，村松，小野，宮田（知）（8名）

（常時参加者） （0名）

（傍聴者） 大家（関電），菅原（原技協），橋本（原子力エンジニアリング），平尾，澤田（海技研）（5名）

（事務局） 岡村

4. 配付資料

配付資料

RKTC5-1 第4回リスク専門部会 議事録（案）

RKTC5-2 人事について

RKTC5-3 リスク専門部会における標準策定スケジュール(案)（至近3年）

RKTC5-4-1 PSA用パラメータ推定実施基準（案）へのコメント及び対応方針整理表

RKTC5-4-2 原子力発電所の確率論的安全評価用のパラメータ推定に関する実施基準（案）

RKTC5-5-1 停止時PSA実施基準改定案のリスク専門部会書面投票におけるコメントに対する対応状況

RKTC5-5-2 原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル1PSA編）（改定案）

RKTC5-6-1 リスク情報活用ガイドライン分科会の活動状況について

RKTC5-6-2 リスク情報活用実施基準へのコメント（分科会、部会、標準委員会）に対する対応（案）

RKTC5-6-3 原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）

RKTC5-6-4 原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）に係る前回部会版との新旧比較（主要な箇所）

参考資料

RKTC5-参考1 リスク専門部会委員名簿

RKTC5-参考2 標準委員会の活動状況

RKTC5-参考3 書面投票結果

RKTC5-参考4 信頼性データに関わるISO規格のレビュー依頼について

## 5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、開始時点で委員30名中代理委員を含めて21名が出席しており、決議に必要な定足数（20名以上）を満足している旨報告された。

### (1) 前回議事録（案）の確認（RKTC5-1）

事務局より、事前配布した前回議事録（案）についてのコメント1箇所について説明し、議事録（案）は承認された。

### (2) 人事について（RKTC5-2）

#### ①分科会

##### ・委員の退任【報告事項】

##### a) リスク情報活用分科会

御器谷 俊之（原子力安全・保安院） 2009年8月27日退任

##### ・委員の選任【承認事項】

##### a) リスク情報活用分科会

金子 真幸（原子力安全・保安院） 2009年8月27日選任

審議の結果、分科会新委員の選任について承認された。

### (3) リスク専門部会所掌の標準に関する今後のスケジュール（RKTC5-3）

成宮幹事より、リスク専門部会の標準策定スケジュールの改訂（案）が説明された。

### (4) PSA用パラメータ推定実施基準（案）の本報告（RKTC5-4-1～2）

平野部会長より、PSA用パラメータ推定実施基準（案）の書面投票の結果（RKTC5-4-参考3）が説明された後、桐本委員より、資料RKTC5-4-1～2を用いて、書面投票時のコメントへの対応について説明が行われた。審議の結果、一部修正の上次回標準委員会に本報告することが決議された。

#### 主な質疑等

- ・ コメント297で、「など」が多いことに対して、意味が違うから良いと答えているが、そのようには読みづらい。表現を工夫すべき。
  - 例示として載せているので、後ろの「など」を取った方が良いかもしれない。
  - 前半と後半は違うものであるとの趣旨で書くなら、同じ確率モデルという言葉を使うべきではない。他のという表現もあるが、他の確率モデルを設定する場合について適切に記載すれば良いのではないか。
  - 表現を見直すこと。
- ・ まえがきに対するコメントが反映されていない。
  - 反映漏れ。修正する。

### (5) 停止時PSA実施基準（案）の本報告（RKTC5-5-1～2）

平野部会長より、PSA用パラメータ推定実施基準（案）の書面投票の結果（RKTC5-4-参考3）が説明された後、吉田（智）委員より、RKTC5-5-1～2を用いて、書面投票時のコメントへの対応について説明が行われた。審議の結果、一部修正の上次回標準委員会に本報告す

ることが決議された。

#### 主な質疑等

- ・ P. 23の修正部分に、技術の習得とあるが、技能の習得の誤記である。  
→ 修正する。
- ・ P. 2の2. 1. 5と2. 1. 6の表現を合わせるべき。  
→ 修正する。
- ・ P. 19, 107及びパラメータ推定の標準で、用語表現が合っていないので整合を取るべき。  
→ パラメータ推定の標準に合わせること。
- ・ 解説で本文を引用するのは良いが、箇条だけだと本文からの引用と分かりづらいので、本文○.○などとすべき。  
→ JISの表記上は必要では無いが、分かりやすさを優先して反映する。
- ・ P. 21の10. 2. 1. 1のM. 2の前のカンマは書体がおかしい。他にも数カ所あるので直すこと。  
→ 修正する。

#### (6) リスク情報活用実施基準のコメント対応について (RKTC5-6-1~4)

成宮幹事より、資料RKTC5-6-1~4を用いて、分科会の活動状況並びにコメント対応について説明が行われた。9/14までに各委員はコメントを提出することとした。

#### 主な質疑等

- ・ RKTC5-6-2のNo. 23のコメントに代表されるが、規制要件の変更を前提としたガイドラインであるRG1. 174を元にして、規制要件を変更しない基準を策定するのが変だと感じている。規制規則を変更するのではなく、発電所に課せられている規制要件を変えてメリットを得ることが重要だと考えている。例えば、AOTを延長してオンラインメンテナンスをするなど、新しい方法へ変更するに当たっては、規制要件を変更してメリットを得るべきである。  
→ 指摘されている「規制要件の変更」には、許認可申請を伴って安全確保活動を変更するようなものは含んでいない。また、RG1. 174は規制が審査に用いるものであるが、その着眼点などは参考になると考えたものである。なお、許認可手続きは規制側と事業者の問題であり、この標準に規定すべきことではない。
- ・ 附属書C. 2には、法律、規則に加えて指針等まで書かれているが、標準にここまで書いてよいのか。  
→ 規制規則類をどこで線を引くかは、非常に難しい。この標準は、規則を変更することまでは含まないこととしている。確かにこのレベルのものまで記載するのかという疑問はあるが、基本ガイドラインとの整合の関係もあり記載するほうがよいということになっていると考える。  
→ その上で、内規については、公開されていないものは記載できない。公開されて要件になっているものは、それを守るのであろうし、記載しておくほうが使いやすさの観点からもよいと考える。ただし、全て記載するのは難しいし、不要であると思う。これについては、個別活用の標準において考えていくことになると思う。

- この標準では、規制規則については、影響を明確にするところまでが範囲であって、適合を判断するわけではない。影響を明らかにするのは当然のことであるので、当然のことを規定しておくというのが分科会での議論であった。
- その点も含めて、学会標準に記載すべきことではない。
  - 使いやすさの観点から記載しておくか、当然のことなので記載しないかという判断だが、記載することで困ることが無ければ、使いやすさの観点から記載しておけばよいということと思う。
- RKTC5-6-2のNo. 19のコメントに関してだが、原子力学会標準は仕様規定として策定していくことは、出力時のレベル1PSA実施基準を策定した頃に標準委員会で決定されたことである。このようなコメントを、リスク情報活用標準と一緒に標準委員会へあげるべきではない。
  - リスク関係の標準はどれもそうだが、標準だけでPSAができるようなものになっておらず、中途半端なものを感じる。ハンドブックのような形式で、きちんと作成すべきではないか。
  - これまでの標準策定においても、できる限りのことを記載しているということだと考えている。PSAを規定するのは難しい面もある。
  - 標準委員会では、ハンドブックや手引きの形式も容認はされている。
- この標準は、個別活用の共通的なものを規定している面があって、確かにあまり仕様のにはなっていない。しかし、これを策定することによって、リスク情報活用を促進するエンジンになればということで策定を進めているということと考えている。
- 4章のe)項について、「是正すること」とあるが、後ろの規定を読めば分かるのだが、この段階では何を是正するかが分かりにくいので、修正のこと。
  - 修正する。
- 解説4に「平成18年3月に示した性能目標案（以下、性能目標案という）」とあるが、性能目標案の初出の箇所で、説明を追加すること。
  - 初出の箇所にきちんと記載する。
- 各委員は、追加のコメントがあれば9/14まで提出すること。

#### (7) 次回専門部会日程について

次回専門部会は、10/7（水）14:30より開催することとした。

#### (8) 標準委員会の活動状況（RKTC5-参考2，参考4）

事務局より、RKTC5-参考2を用いて、標準委員会の活動状況について報告が行われた。さらに、RKTC5-参考4を用いて、ISO TC85のSC6国内対策委員会より、信頼性データに関する3つのISO規格について、5年毎改定の必要性に関するレビュー依頼が標準委員会に来ており、リスク専門部会にて対応して欲しいとの宮野委員長からの依頼について説明を行った。審議の結果、PSA用パラメータ分科会に対応を依頼することとした。

以上